



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/22 (月)	+ 100	+ 54,600	+ 54,700	国債償還 (5年・10年・20年) 国庫短期証券発行償還 (3M・1Y) 利払い	CP等買入 ▲100 社債等買入 ▲100 国債補充供給 1,000		欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (9月)
9/23 (火)				秋分の日			欧：ユーロ圏製造業・サービス業総合PMI (9月)
9/24 (水)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000				
9/25 (木)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000				日：日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月30・31日分) 米：GDP (2Q、確報値) バーFRB理事の講演 新規失業保険申請件数 (9月20日終了週)
9/26 (金)	トン	▲ 10,000	▲ 10,000	国債発行 (40年)			日：東京CPI (9月) 米：ボウマンFRB副議長、討論会に参加 個人消費支出価格指数 (8月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比600億円減少の498兆8,600億円から始まった。その後、国債発行等の要因により減少し、9月19日は498兆5,600億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.466%～0.52%のレンジ、1M～3M物0.605%～0.700%のレンジで出合が見られた。

日銀は金融政策決定会合において、次回会合までの金融市場調節方針として、無担保コールレート（ON物）を0.5%程度で推移するように促すことと、保有する上場投資信託（ETF）と不動産投資信託（REIT）を市場で売却すると決めた。

来週の予定は、国内では、25日に日銀金融政策決定会合議事要旨（7月30・31日分）の公表、海外では25日に米GDP（2Q、確報値）の公表や米新規失業保険申請件数の公表などがある。

【無担保コールレート】

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.525 ～ 0.60
2M	0.54 ～ 0.65
3M	0.58 ～ 0.70
6M	0.65 ～ 0.85

＜レポ＞

足許GCは週を通して+0.49%～+0.50%の狭いレンジで取引された。短国の発行が重なった19日の取引も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470～476回債、5年155～179回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

【オープン市場】

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ～ 0.65

＜CP＞

今週の入札発行総額は約1兆2,257億円で、週間償還額の1兆4,877億円を下回った。発行残高は、先週末時点の24兆5,938億円から、9月18日時点で24兆8,724億円に増加した。発行市場は、不動産業・ガス業・電気機器業を始めとした幅広い業態で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物では0.50%台、3か月物では0.60%台を中心に幅広い出合いが見られた。

来週の償還額は4兆2,000億円となっている。発行市場は、一部の企業で期末の有利子負債圧縮を踏まえた発行抑制が想定されることから、償還超となる見込み。発行レートは、金融政策修正への警戒感から、引き続き水準を探る展開が予想される。

＜TDB＞

17日の1Y（1332回債）の入札は、最高落札利回り0.7049%（前回債0.4506%）、平均落札利回り0.6937%（前回債0.4352%）となった。

18日の3M（1333回債）の入札は、最高落札利回り0.4718%（前回債0.4506%）、平均落札利回り0.4569%（前回債0.4352%）となった。

来週の入札は26日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。